

8. 広報・普及啓発活動

1. はじめに

大型放射光施設SPring-8が学術の発展や産業の振興にいかに関与しているかについて国民の理解を得るとともに、放射光利用者の裾野の拡大に資するため、広報活動を通じた的確な情報発信は極めて重要である。

2013年度に引き続き、放射光利用の研究成果、利用者の支援活動、施設の運転状況、各種イベント開催など、SPring-8における活動情報の分かりやすく、タイムリーな発信に努めた。

2. マスメディアへの情報発信

2-1 プレス発表

SPring-8を利用した研究成果や施設公開といったイベント情報などを東京、大阪及び地元兵庫のマスメディアに対して発信した。2014年度における理研とJASRIを合わせた発表件数は31件であった。

2-2 取材対応

SPring-8で行われる、新聞、テレビ、雑誌といったマスメディアによる取材対応を行った。電話での取材を含め、2014年度の取材件数は18件を数え、その内訳は、新聞7件、雑誌や社内報など出版物・PR動画3件、テレビ・ラジオ8件であった。

3. 広報資料の制作

広報資料として、SPring-8 NEWS（和文）、SPring-8パンフレット（一般向け（和文・英文）、詳細版（和文））、SPring-8産業利用成果集（和文・英文）、SPring-8学術成果集（和文・英文）、SPring-8関連の写真、研究成果などの各種パネルなどを制作または配布した。

SPring-8 NEWSは、SPring-8の活動を広く知ってもらい、研究成果などを分かりやすく紹介するとともに新規利用者開拓を目的とする隔月誌である。2014年度も奇数月毎に年6回発行した（図1）。

SPring-8では、国際結晶学会（IUCr）が年6回発行する論文誌「Journal of Synchrotron Radiation」にSPring-8の施設情報を2004年以来毎月掲載し、SPring-8の広報活動のみならず放射光科学の普及に貢献している。2014年度は、SPring-8で得られた研究成果1件および研究手法4件、ならびにSPring-8で行われた行事（Cheiron School 2014）を1件紹介した。



図1 SPring-8 NEWS誌No.78の表紙

4. ホームページの管理運営

SPring-8において、ホームページを活用して利用者支援から一般向け広報に至るまで、幅広い情報を提供している。2014年度は、編集委員会を計2回開催、また、メール審議を5回実施し、SPring-8ホームページにおける検討事項の抽出およびその対策について検討を行い、コンテンツの充実等を図った。トップページについては、研究成果一覧においてSPring-8とSACLAの成果を「区別して表示する方法」を採用した。また、トップページに「利用について」の表記が多く、ユーザーにとって分かりにくかった表記についての見直しを行った。この効果により、利用についての問い合わせ件数が前年に比べ倍以上に増加した。「利用事例データベース」については、最新の利用事例としてプレスリリース記事が表示されるようシステムの改修を行った。

一般向けコーナー「光のひろば」については、内容をより充実し、広く一般の方々に対し「SPring-8がどのような施設で、どのように活用されているのか」を理解していただけるよう、コンテンツの整備を継続して行った。「SPring-8研究者インタビューシリーズ」では、SPring-8を利用して最先端の研究分野で優れた成果を創出している研究者の言葉や素顔を伝える動画をYouTubeを活用して掲載している（図2）。2014年度には、

唯 美津木 名古屋大学 教授
 土山 明 京都大学 教授
 伊藤 廉 株式会社 ミルボン

山下 敦子 岡山大学 教授
 田中 裕久 ダイハツ工業株式会社
 の5人の研究者に出演していただいた。



図2 SPring-8 ホームページ一般向けコーナー「光のひろば」の「研究者インタビューシリーズ」。SPring-8を利用して最先端の研究分野で優れた成果を創出している研究者の言葉や素顔を伝える動画をYouTubeのSPring-8 Channelに掲載。

SNS (Social Networking Service) を活用した広報展開として、SPring-8 からの情報発信力を向上させるため、研究成果および学会合ページにFacebook、Twitterボタンを設置し運用している。2014年度のSPring-8ホームページアクセス数は、ユーザーの延べ訪問回数であるセッション数が1,054,172件、ユーザーがページを閲覧した回数であるページビュー数が2,706,500件であった。これらを1日あたりに換算するとそれぞれ2,888件、7,415件となる(2013年度は1日あたりそれぞれ2,495件、7,155件)。

5. 見学者の受け入れ

SPring-8及びSACLAを2時間で案内する予約見学ツアーを標準としつつ、申込者からの要望を踏まえ、それぞれに最適な案内・説明を行うよう努めた。

2014年度の見学受け入れ数は、施設公開を除いて11,194人であった。これまでの来訪者の推移を図3に示す。

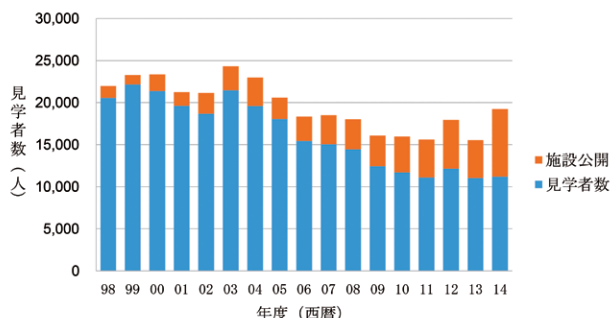


図3 見学者数の年次推移

6. 広報行事

6-1 施設公開

2014年4月27日(日)、科学技術週間にちなんで、22回目となるSPring-8施設公開を理研とJASRIの共催で、キャンパス内の各機関の協力を得て開催した。天候は晴れ、8,049人ももの来場者で大いに盛り上がった。X線自由電子レーザー施設(SACLA)の公開の他に、SACLA実験研究棟大会議室での科学講演会(「世界結晶年2014; 寺田寅彦の「X線と結晶」から百年後のSACLAへ」、「古代ガラスの謎にせまる」、「X線レーザーで観た、生きた細胞」、「次世代燃料電池車の開発を支える放射光」)も好評で、SPring-8から出た成果をアピールできる良い機会となった。その他各会場では、放射光を用いて解明された水の性質の紹介や実演実験が行われるなど、体感できるイベントコーナーを数多く設けたこともあり、これらのコーナーは特に子供たちに大人気だった(図4)。



図4 第22回SPring-8施設公開

6-2 サマー・サイエンスキャンプ

2014年8月4日～8月7日、理化学研究所播磨地区において、体験実習や研究者との交流を通して科学技術分野への理解を深めることを目的とした「サマー・サイエンスキャンプ」を開催し、全国から選ばれた高校生18名が参加した。

1日目は、開講式、オリエンテーションの後、SPring-8とSACLAの施設紹介の説明を受けた。2日目は、SPring-8とSACLAの施設見学の後、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻 常行 真司教授による講演「コンピューター上に「物質」をつくる—スーパーコンピューターを用いた物質科学研究入門—」を聴講し、午後からは4つのグループに分かれて体験実習を開始し、夕刻には交流会を行い、生徒同士や生徒と研究者が交流を深めた。3日目は前日に引き続いて体験実習とそのまとめに



図5 高校生のためのサマー・サイエンスキャンプ

熱心に取り組み、最終日にはグループ毎に体験実習のまとめを発表した。

限られた時間であったが、参加した生徒達にとってこの4日間で放射光科学の最先端に触れることができ、その体験が将来の進路選択に役立つことを期待する(図5)。

6-3 出張授業

出張授業は、SPring-8の研究者などが小中高等学校に出向き、科学技術についての実験を含めた授業を行うもので、1999年度から実施している。

2014年度は、2014年12月17日、兵庫県立佐用高等学校に理化学研究所の研究者が出向き、1年生12名、2年生14名に対して2時限にわたって特別講座を行った。

6-4 展示会・イベントへの出展

SPring-8の活動や現状・動向を紹介するため、日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム(2015年1月10日～12日、立命館大学びわこ・くさつキャンパス)でポスター展示を行った。

また、兵庫県内の高校生・高専生を対象とした、第7回サイエンスフェアin兵庫(図6)に出展し、理研(放射光科学総合研究センター、ライフサイエンス技術基盤研究センター、発生・再生科学総合研究センター、HPCI計

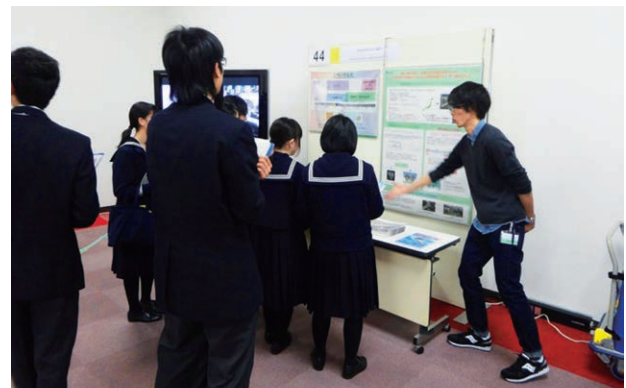


図6 サイエンスフェアin兵庫(2015年2月1日、神戸市)への出展

算生命科学推進プログラム、生命システム研究センター)及び計算科学研究機構と協力体制を組み、パネル展示並びに液晶パネルによる施設概要紹介、説明員による研究内容の解説を通して、SPring-8や放射光の理解増進に努めた。

7. 普及啓発

SPring-8の更なる利活用拡大のための普及・啓発活動としてSPring-8シンポジウム(2014年9月13日～14日、東京)、SPring-8ワークショップ～新たな分野融合型研

究の開拓に向けて～（2015年2月19日、東京）等のワークショップを開催した。

また、萌芽的研究テーマを通じて、斬新な発想を有する若手研究員を育成し、既存の利用研究とは異なる新しい分野の発掘・開拓を図るために、萌芽的研究支援ワークショップ（2014年10月26日、東京）、萌芽的研究支援課題説明会（2014年6月9日、東京工業大学）を実施するとともに、大学生、大学院生の若手研究者を対象に、SPring-8における最先端の研究の紹介と放射光利用技術の習得を目的として、SPring-8夏の学校（2014年7月6日～9日）を実施し、若手研究者の育成を図った。

さらに、放射光の有用性を浸透させ、新たな利用者及び利用研究分野を開拓するために、産業利用を目的としたXAFSデータ解析講習会2014（2014年7月30日）、産業利用に役立つXAFSによる先端材料の局所状態解析2015（2014年3月5日～6日、東京）を実施するとともに、放射光利用実体験及び放射光実験機器基本操作の習得等を目的とした実地研修会（XAFS,HAG法によるタンパク質結晶回折実験,硬X線光電子分光測定研修会他）を8回開催した。

加えて、日本蛋白質学会（2014年6月25日～27日、神奈川）、応用物理学会（2014年9月17日～20日、北海道）、日本生物物理学会（2014年9月25日～27日、北海道）、日本化学会（2014年10月15日、東京）に展示ブースを出展、並びに説明を行った。

8. まとめ

これまで述べたように、SPring-8における活動や放射光科学の普及・啓発に関して、種々の手段により分かりやすい情報発信に努めた。引き続き、さらに効果的・効率的でタイムリーな情報発信に取り組んで行く。

理研 放射光科学研究推進室
JASRI 利用推進部 普及啓発課